



真実と躍動

彫刻は単なる記録ではなく
感動の対象となる
宇宙のすべての中に
真実をたずね
制作を進めるが
コピーではなく
新しい形態を造形し
清新な生命の中に
躍動が有り
呼吸していなければならぬ

師の言葉

彫刻家・日展会員
(審査員)
鈴木基弘



(夏休みがやってくる、プールがはじまった 根石小にて)

抽象的な

完全を

求めた頃

伊藤 四三九



師範を卒業して三年目、岡崎附属小学校の訓導（いまの教諭）になつた頃の思い出である。自分の受持のクラスの子どもを、一人残らず、算術（いまの算数）の点が百点になるようにしてやろうと意気込んだ。よく教材研究をして、それこそ噛んでふくめるようにして教えた。全般に成績はよくなつたが、できない子は矢張りできなかった。そこで、特にできない子数名を授業後残して補習をしてや

つた。

ある日のこと、一人の男の子はいくら繰り返して教えても、すぐ忘れてしまう。しだいに、こちらの気が立ってきて、声が大きくなり、ついに手を出してしまつた。子どもは泣くし、こちらも泣きたくなつて呆然としてしまつた。今から思うと、いくら善意からとはいへ、かわいそうなことをしたものと思う。

ちよつと、話が横道へそれるが、なぐつて泣かして教えた子が、卒業後、一番慕ってくれ、いろいろ身上問題まで相談にきてくれた。教育には、かたんに割

り切れないものがあるようである。方法の巧拙より、しんけんな気持が肝じんであろう。

話をもとにもどして、さきの教え方について考えてみよう。四十数人の子どもを、その素質、個性を考えず一括して、同じように見て、すべて百点とれるようにしてやろうという計画は、抽象的な完全を狙うものであつて、具体的な完全を忘れたものである。百点とれる能力をもつた子には、百点とらせ、三十点しかとれない子には三十点をとらせる。それが具体的な完全であつて、子どもの実態に基づかないで、功だけを考えた学級運営計画はほんとうのものではないと思う。

具体的完全に気づいたのは、三十数年後、附属小学校の校長になつてからであつた。ある日、朝の集会で、「廊下を走らないように」という訓示をした。この集会の注意で、全校六百余の児童が一人も走らないであらうと思つた。現実はその甘いなものではなかつた。一時間目の授業が終わつて放課になると、もう何

人かの子どもが、勢いよく廊下を走るのである。早速とらえて注意しようとする

と、あどけない顔をしてあやまる。叱るうにも叱れないのである。

そこで、わたくしはよく考えてみた。附属の子どもといつても、たくさんの子どもの中には、自分の心身を十分にコントロールできない未熟児がいるはずだ。それに小学校の段階の子どもは、元來、活動的衝動的で、大人のような行動がとれないのが普通である。

何パーセントかの子どもが走るのは当然であり、自然である。百パーセント走らないように要求すれば、必ず何パーセントかの子どもを殺してしまうことになるであらう。このように考えたとき、自分の要求、目標がいかに抽象的であつて、具体真実のものでないかを知つたのであつた。

（愛知教育大学教授）

制服



和服から洋服へ

・男子はかすり、女子はじみな柄の木綿という服装が、岡崎地方では昭和初期まで続いていた。卒業式などは、男女ともはおり、はかまを着用したものだ。

・着物にはポケットがない。縫い上げをポケット代わりに、ベツシヤンやカチン玉、さらには小石やおかしまでつめこむ。

・寒くなるよ、はんでんを愛用。動き回る子どもは、すぐに脱ぎ捨て、はんでんの忘れ物がよくあつた。

・女の子でも、三尺を回旋塔にまきつけそれにぶら下がつて遊ぶ（現代風にいえばターザンごっこ）勇敢な者もいた。

・困つたのが身体検査。一、二年の子で下着を着けない子がちよいちよいいた。仕方がないので、借りたり貸したりで友情を発揮、やつとその場の難を切り抜けたといつたエピソードも生まれた。

・昭和八年、小学国語のスクラ読本が使用され始めたころ、教育内容も、服装もかなり近代化され、洋服も大いに普及。大樹寺小では、この年の卒業生、四十八名中、二十一名が洋服（男子黒の学生服、



悠紀斉田御田植祭

大正天皇即位に際して即位後大嘗祭が行なわれた。この大嘗祭には悠紀、主基の両斉田より白米一石が供納される。

斉田とは、大嘗祭供納用の新米を作る清められた田の意で、大正三年二月五日、悠紀、主基の亀甲二枚を炎にかざしその亀裂が、悠紀が愛知、主基が香川を指しているとして決定された。

愛知県の各地を候補として検討した結果三月六日、愛知県碧海郡六ツ美村大字下中鳴字丸の内の四段歩に決定した。

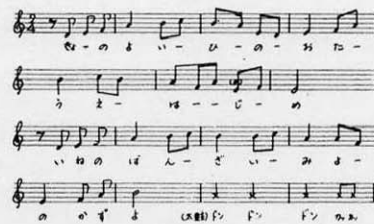
一 斉田の耕作に当る奉耕者一二三名（男九二、女三〇）を厳選し、定められた衣装をつけ、きびしい奉耕者心得に従って耕作についた。この御田植式にうたわれた御田植歌の曲調は「五万石でも岡崎様は城の下まで船がつく」の俗謡の声調を採用し、歌は、岡部、早川、山崎の三氏のもの採用され今日もうたわれている。

尚、現在では毎年七月十日前後に六ツ美婦人会の方の手で行なわれている。

また春の家康行列参加の様子は記憶に新しいところである。

悠紀斉田御田植祭

御田植歌



熱田神宮宮司 岡部 讓作

今日のよい日の御田植はじめ、稲の萬歳御代のかずやがて世界の六ツ美（睦み）の種も悠紀の御田より出るように

六ツ美村長 早川龍介作

菅の小笠にそろいのきもの、苗もそろへば気もそろふ
三河萬歳萬歳稲の穂に穂出るよに祈らんしよ

早苗うえましょ真すぐに植えう、すぐは神様およろこび
安城農林校長 山崎延吉作



女子セーラー）で記念写真に納まっている。（昭和十二年には、全員が洋服）
・ いずれにしても、一挙に洋服になったのではなく、着物にくつ、洋服に下駄、ぞうりといった和洋折衷のいでたちが、ずつと戦後まで続く。

国防色のころ

・ 戦中は、学生帽が戦闘帽になり、えんぴつを持つかわりにかまやくわを持った。衣料品も極度に不足、母親のとっておきの着物が、米や、子どものモンペに化けたりしたもの。綿入りの防空ずきんをかぶり、クワのせいで作ったガサガサの洋服、そしてわらぞうりといったのが一般の服装であった。

・ 衣料品は切符制となり、やつと手に入れたスフの布も、三日もすれば穴があくしまつ。白シャツは敵軍に発見され易く飛行機からの機銃掃射を受ける危険ありということ、草色に染められた。赤、白、黄などの色は衣服にはほとんど使われず、文字どおり国防色一色にぬりつぶされていった。

豊かさの中で

・ 戦後、三十年。制服も最近では経済面に関心が向けられている。中学生の場合、夏・冬二着で二万数千円もする。新調する際には、襟の取りかえのできるもの、家庭で洗たくしたり、アイロンかけのできるものといった具合に、細かい神経がはらわれている。

（岩瀬元・岩月定夫・朝雄伸子、その他の先生のお話から）



教師と親を結ぶ 通知票

T 「なんのために勉強するの

通知票の点数を良くするためよ。

なんのために良くするの

きまつてるじゃない

高校入試のためよ。

なんのために入学するの

そりゃあ、高校ぐらいい出てなくちゃ

いい職場も見つからないし

いいところにお嫁にいけないからよ」

これはT中学校生徒の作文だが……。

では、家の方の通知票についてのお話

をお願いします。

母 難かしいことはわかりませんが……。

家の子もテストの前になると一週間位は、夜遅くまで勉強を始めるよね。

私がつき合えるのは、せいぜい十二時までです。たまにはコーヒーなど出してね。でも、身体をこわさねばよいが……。それだけが心配だわ。

父 わしは勉強についてはほとんどみな

いが、本人がやる気でやればそれで良い

かと思っている。まあ、一生懸命にや

れるだけ頑張ればいいわなあ。

母 私らも勉強を見るというわけにはい

かないのでね。ただ、テレビなど見な

いで机に向かっているれば、安心して

らんですよ。

父 あとは通知票の点ですね。それが一

番苦になりますわ。通知票の点がさが

った時は大へんなショックですね。で

も、教えるおへんがなないもんですから

「もつと頑張りな」とか、「しつかり

勉強しなさい」の一点張りでね。

いつもなるべく激励してあげようと

があること」とあつたが、このような

性格の面での関心は大いにあるね。特

に友だち関係などで、みんなから信頼

されているかどうか。学校の様子は

家とはちよつと違っているからね。先

生の書かれる人物評は、さすがだと思

います。いつもなるほどとうなずくば

かりですよ。それから個人の長所、欠

点なども家で気のつかない事などもあ

つて大へん参考になりますね。

母 私も、家と学校と随分違った態度だ

なあと思う時がありますわ。学級担任

の先生との話合いが欲しいですね。

父 だいたい、毎日の勉強が大事であつ

て、テストの前だけの勉強なんか何に

もならん。子どもに根気強さとか、苦

しさに耐えて一つことをやり遂げる根



通知票

下がったために



六年 M 男

たった紙きれ一枚で、ぼくはあんなに

苦しんだ。五年の二期期の通知票で国語

と理科がBに下がった。

父はおこつて、

「マンガの読みすぎだ」

と言った。そして、母も、

「マンガばかり読んでるで、こんなに

悪くなつただよ」

と、ひとこと言った。すると、ダメ押し

をするように父が、

「三学期中、マンガを買っちゃいかん」

ぼくは、自分の一ばん大切にしている

ものが、なくなつたように感じた。三学

期中、マンガを買ってはいけないうんて

ぼくには、とてもショックだった。マン

ガのない毎日なんて、ぼくにはがまんが

できない。そこで、何かと理由をつけて

おばあちゃんにお金をもらつて、マンガ

を買つたが、今までずっと買っていたテ

もつたいない
牛乳の味

市川 ち江

「……びんがカチヤー」とひびいて、箱の下から牛乳がもれた。何本おれたんだろうと……

かがみ

N君はじめ班の人が、ぼくの食器の中に牛乳を入れてくれた。先生までもらった牛乳はなかなか飲めなかった。うれしさと悲しさがごちゃ混ぜになって、もつたいない感じがした。

……これほどまでにみんながぼくのことを思ってくれて……」

祖父母と暮しているTの日記の1節。彼は、素直で感じやすく、人の心がよくわかる。この日記を学級全員で紹介しながら、Nたちに拍手を送ったことはいままでもない。

毎日の日記から、子どもの心の動きをとらえ、朱書きや、語りかけをおして、より深く喰いこむ。そこに思わぬ発見や、喜びがある。四月から始めて二冊終わり、もう夏休みへの夢が盛られてくるこのころである。
(羽根小)

太陽の照りつける
コートにて

杉本 佳子

「先生、一年生ばかり教えていないで、私たち上級生をもっとしつかり見てください。」と、キャプテンS子のことば。下級生に対するひがみかなと思う。

二、三日後、S子「先生、シュートのフォームを見てください。」下級生に負けまいとするのか、きょうは意気込みが違うようだ。「ひぎを曲げて、ジャンプ！ もつとリングに近づいて。」と私。午後の練習も、三年生がまつ先に、「先生、お願いします。」

ホッとすると同時に、ひがみ根性なんて考えていた自分が恥ずかしくなる。彼女たちの素直な心をこわさないようにしなければ。

思えば、私自身、高校時代はバスケットボール部員として、汗と血の毎日を過ごした。その中で得たものは、今日の私を支えている。

いま、私が体験した運動クラブ独特の味をひとりでも多くの生徒に味わわせてやりたいと、きょうも太陽の照りつけるグラウンドに立っている。
(葵中)

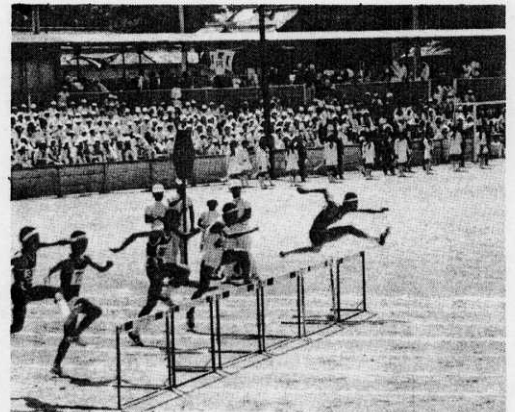
第18回岡崎市中学校総合体育大会成績

●46. 6. 2

種目	会場	成績			
		優勝	2位	3位	3位
陸上競技 男	公園ランド	矢作	葵	甲山	
陸上競技 女	公園ランド	甲山	城北	竜海	
バスケット 男	城北中	美川	附属	城北	矢作
バスケット 女	城北中	美川	矢作	甲	南
バレー 男	竜海中	甲山	城北	南	竜海
バレー 女	竜海中	矢作	葵	南	福岡
庭球 男	公園コート	矢作	香山	南	美川
庭球 女	公園コート	矢作	東海	南	福岡
卓球 男	矢作中	矢作	南	東海	葵
卓球 女	南中	矢作	東海	香山	南
体操 男	竜海中	東海	葵川	竜海	
体操 女	竜海中	南	美川	葵川	
ハンドボール 男	葵中	六ッ美	城北	美川	葵
ハンドボール 女	葵中	六ッ美	葵	岩津	
剣道 男	市民体育館	常盤	福岡	城北	矢作
剣道 女	市民体育館	甲山	矢作	城北	美川
柔道 男	美川中	竜海	美川		
ソフトボール 女	葵中	甲山	岩津	矢作	城北
野球 男	城北中・南中	城北	岩津	美川	葵

● 個人成績 (陸上競技)

男子	記録	氏名	校名	女子	記録	氏名	校名	
100m	12"1	市川 幸晴	葵	100m	13"4	半野なおみ	竜海	
200m	24"9	杉浦 明広	矢作	200m	28"2	津田 和枝	城北	
2000m	6'23"2	高須 植二	甲山		80m	12"9	石川 洋子	甲山
100H	14"7	加納 英行	甲山					
800R	1'43"5		矢作	400R	56"8		竜海	
低400R	52"1	(予51"3◎)	岩津	低400R	56"4		城北	
走 幅	5M74	西奈美正史	城北	走 幅	4M52	竹内ゆう子	甲山	
走 高	1M60	松原 美樹	竜海	走 高	1M40	平井千賀子	竜海	
砲 丸	12M12	高橋 俊幸	矢作	砲 丸	11M20	柴田 典子	甲山	
800m (オープン)	2'20"0	渡辺	矢作					





第二回教育文化賞実施要領決まる

申請・推薦は九月中旬に

昨年度、岡崎竜城ライオンズクラブからの基金により制定された「教育文化賞」は、本年度も次の要領で実施することになり、係では昨年以上に多数の申請、推薦件数をと期待している。

1、趣旨 岡崎市の教育文化振興に寄与する個人、または団体のすぐれた業績や現に続けている研究に「教育文化賞」を贈り、顕彰、助成を行なう

2、選抜方法 本人・団体よりの申請、または関係機関の推薦を受け、選考委員が選定。

3、表彰 受賞者(件数)発表は十月下旬、授賞式は十一月中。賞額のほかに、教育文化奨励費(一件につき三万円)を贈る。

4、申請・推薦要領

・所定の用紙に所要事項および業績内容の概略を記入し、必要な資料があれば三点以内

【寄贈刊行物・資料等】

◇中学生の読書指導 岩津中
◇岩中圖書五十選 岩津中

何をどのように読ませるか、関心を持たせ感想文を書かせるには、と全職員が全学級で実践した一年間の記録と、必読書リスト。いずれもB6判。

◇市民歌集岡崎のうた

市民運動推進連絡協議会編 郷土岡崎にちなむ古い歌新しい歌の集成。現場教師も協力して作ったポケット判。80ページ

◇佐藤玄彦はだかの対談 「豪快さと涙」の同居した先生の人柄が溢れた痛快放談。

に限って添付する。

- ・締切り 九月二十八日(土)
- ・連絡及び送り先 岡崎市教育委員会学校教育課・教育文化賞担当(電話二三一六四三九番)

■盛上がった教職員体育大会

組合、校長会、現職教育委共催の教職員体育大会が快晴の六月十五日、城北中・連尺小を会場に行われた。

ことしは、第一部に全員が参加する十ブロックの対抗競技、第二部に選手による四ブロック球技試合といった新趣向も加えて、例年にも増して健康で楽しく、しかも白熱した大会となった。成績は次のとおり。

- ・第一部 優勝 美川・河合、2位 矢作、3位 竜海
- ・第二部優勝ブロック ソフト 北、庭球 北、バレー男 北

バレー女 東、卓球男 東、卓球女 西

■全小学校の先生方

VTR操作技術マスター

本年度の予算により市内全小学校に設置されることになってきたVTRとモニターテレビが六月中旬一斉に設備された。これを機に、有効な活用をめざして、全小学校の先生方が、視聴覚主任会の企画したVTR講習を受講。結果は、実技と理論の点検テストに全員合格というわけで、これからの指導効果が大きいと期待されている。

日本を出発しまして早くも一年余り。ようやくマレーシアの気候にも慣れ毎日をがんばっています。おかげさまで家族全員、医者への世話にもならず感謝の気持ちでいっぱいです。

今年には七人の派遣教育のうち六名が帰国し、私一人が残ってしまい、新しく赴任された先生方の、住宅から学校事務等の全ての引き継ぎでゆっくり寝るひまもありませんでしたが、ようやく本来の教育活動に専念できるようになったところです。

マレーシアでは、中国との国

交が正常化され、画期的な政策として全国民が休日となり、国を挙げてのお祝いがあつたばかりです。

マレーシアだより

クアラ・ランプール日本人学校
内藤 広光

この国は、国王、首相の力が極めて強く、それが議会に反映

されて着実にその成果をあげています。最近では、保健衛生が重点的に取り上げられ、町を汚したり、立ち小便をしたりすると五〇〇

ドル(約六万円)の罰金をとられます。毎週全市に消毒や清掃がなされ美しい都市になっています。しかし、何といつても熱帯の国です。常にデング熱やコレラの噂が続き何となく落着きません。その他、この時期はマラリヤや、ジフテリア、チフスが流行します。七月まで暑さ

の形でエネルギー発散の場をつくらないと慢性的にフラストレーションの高い特殊児ばかりになりそうである。この問題に取り組むところが、それとともにインターナショナル化をめざす日本人が日本人学校をどう位置づけるかも今の私たちの課題です。

最近、日本人学校の児童・生徒の様子がよくわかってきました。広範囲に点々と散らばった日本人子女は、常に遊び相手や相談相手が不足します。何らか

昭和三十八年四月、家族ぐるみ赴任、現在も香山中学校籍。

THE JAPANESE SCHOOL OF KUALA LUMPUR
No.7, Jalan Kia Peng,
Kuala Lumpur,
Malaysia.

7月の行事

日	曜	行	事
1	月		市制記念日
2	火		教頭研修会(市役所)月報編集委員会(市役所) 新任教員研修会(矢東小)
3	水		プール衛生管理指導(5日まで)
4	木		指導主事学校訪問(大樹寺小)
5	金		定例校長会(市役所6階大会議室) 教科書採択研究会(梅園小)
6	土		レクリエーション講習会(北部公会堂)
7	日		16ミリ映写機指導者養成講習会(婦人会館8日まで)
8	月		
9	火		新任教員研修会(城北・連尺)
10	水		岡崎市婦人大会(市民会館)
11	木		教育委員会
12	金		岡崎教育文化大学講座運営委員会
13	土		特殊学級社会見学(蒲郡方面)
14	日		みかちゃん放流
15	月		短縮授業開始 ピアノ開鍵式(藤川小)
16	火		
17	水		
18	木		
19	金		文化財保護審議会(市役所) ピアノ開鍵式(愛宕小)
20	土		1学期終業式
21	日		市夏季OB、B級軟式庭球大会
22	月		小学校球技競技会(27日まで) 認定講習(25日まで) 中学校市長杯兼西三子選(8月2日まで)
23	火		市新任教員合宿研修会(24日まで)
24	水		県中堅教員研修会(26日まで)
25	木		生徒議会打合せ会 「岡崎の歴史」編集委員会
26	金		中学校西三河大会(31日まで)
27	土		
28	日		市納涼軟式庭球大会
29	月		県中学校技家実技研修会(美川中) 市実技講習(図工、美術、音楽)30日まで
30	火		
31	水		講演会(甲山会館)

- 表紙写真 杉 浦 耕 一 (山中小)
●カット 中 山 吉 朗 (六名小)



この本を

1. 神々の体系

上山春平
中公新書 ￥340

2. 鎌倉再見

金子 晋
読売新聞社 ￥590

3. 歴史の中の日本

司馬遼太郎
中央公論社 ￥950

4. 子どもを活かす力

東井義雄
柏樹新書 ￥300

5. みんなの綴方教室

国分一太郎
新評論 ￥1000

6. 死ぬことと生きること

土門 拳
築地書館 ￥4500(限定)
￥1200(普及)

7. 知的好奇心

波多野誼余夫 稲垣佳世子
中公新書 ￥250

8. 日本のママ・世界のママ

高橋 敷
三見書房 ￥480

9. 菅江真澄―常民の発見

秋元松代
淡交社 ￥950

10 日本人のこころ

梅棹忠夫他
朝日新聞社 ￥580

寸
言

▼編集委員のえらんだ「この本を」職場の共通話題として……

▼読書は豊かな人を、談話は即妙の人を、書くことは正確な人をつくる。

(ペーコン)

▼夏来たる。木は繁り、人は鍛えられる。林間学校に、水泳訓練に、クラブ活動に、子どもは強く野性的に。

私は春夏秋冬のある日本に生まれたことを喜ぶ。教師は高く大樹とならんか。